

## 藤原総合文化会館検討専門部会会議録

件名	第9回藤原総合文化会館検討専門部会		
日時	令和6年2月29日(木) 14:00~15:00	作成日	令和6年2月29日
場所	藤原庁舎2階 藤原公民館 会議室	記録者	資産経営課 鈴木
<b>出席者</b>			
<日光市> 鈴木財務部長 植木資産経営課長 高野資産経営課長補佐 資産経営課公共施設マネジメント係職員 4名 手塚生涯学習課長 杉山生涯学習課文化振興係長 斎藤生涯学習課文化会館整備室室長 細井藤原観光課長 藤原公民館 松井副主幹		<専門部会メンバー> (部会員、アドバイザー一名簿別紙)  (敬称略)	
<b>議事内容</b>			
<b>■配布資料</b> 第9回藤原総合文化会館検討専門部会 次第、会議資料、参考資料、別紙、部会員名簿			
<b>■議事録</b> <b>1. 開会 事務局</b> <b>2. 部会長あいさつ</b> 皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、第9回藤原総合文化会館検討専門部会にご出席いただき、誠にありがとうございます。前回は7月10日に会議を開催しまして、半年以上期間が空いてしまいました。 本日は議事が4つございます。基本的な市の考えや今後のスケジュールについて話し合いをさせていただければと思います。本日はアドバイザーの先生方にもご参加いただいています。よろしくお願いいたします。			
<b>3. 説明事項</b> <b>部会長</b> それでは、部会長として議長役を務めさせていただきたいと思います。まず本日もご出席いただいております部会員の数は、「11」名ということで、定足数(過半数)に達しております。会議は成立いたします。また本日、議事に入る前に傍聴の申し出がございましたので、それを許可したいという風に思いますがよろしいでしょうか。では、よろしくお願いいたします。 それでは、3の「議事」に入りたいと思います。まず、(1)「特別委員会での検討」について事務局より説明をお願いします。			
<b>事務局</b> ローマ数字1「特別委員会での検討」について説明させていただきます。 昨年の7月に開催しました、第8回会議で協議された内容を議会特別委員会へ報告しましたところ、以下2点についてご質問をいただきました。 1つ目は藤原図書館の今後の取り扱いについてです。 地理的な面を考慮し、藤原地域における図書館の必要性についてご指摘をいただきました。 このことに対する市の考えとして、藤原図書館の方向性は現在策定中の公共施設マネジメント計画実行計画(第2期)において定めていくこと、その他、議会のご意見も踏まえ今後の対応を検討することをご説明しております。 また、現時点における藤原図書館の今後の方向性、及び検討方法の案については資料記載の通りと			

## 議事内容

なっております。

2点目は財源についてです。

財源を確保する上で、国からの助成金は対象となるのかご質問をいただきました。このことに対する市の考えとして、地元住民、観光客双方から利用される施設を検討し、可能な限り国庫補助金等の財源確保に努めていくことをご説明いたしました。

### 部会長

ありがとうございます。

ただ今の説明につきまして何かご質問等ございますでしょうか。

特にないようでございますが、アドバイザーの先生の方からございますでしょうか。

### 山本アドバイザー

財源の部分について、国庫補助金は省庁ごとに存在するため、様々な省庁の補助金に対して活用の検討を行ったほうがよい。

### 部会長

ありがとうございます。

それでは（1）については以上になりますが、よろしいでしょうか。

それでは続きまして、（2）「整備にむけて検討すべきポイント」と（3）「検討するポイントに対しての基本的な市の考え」については関連がありますので、まとめて事務局より説明をお願いします。

### 事務局

ローマ数字2「整備に向けて検討すべきポイント」について説明させていただきます。

これまでの専門部会において、藤原総合文化会館跡地の整備にあたっては、住民、観光客双方から利用されるものを検討するというところで合意をいただいております。

本会議では、先進事例をもとに施設整備に向けて検討すべきポイントを整理してまいりたいと思っております。

今回は、資料に記載しております【先進事例抽出の視点】を基に、広場として活用されている3つの先進事例を取り上げさせていただきます。

事例1つ目は、広島県三原市にあります“キオラスクエア三原”になります。

キオラスクエア三原は公共施設と民間施設が一体的に整備された施設になっており、施設内に整備された広場は市民の憩いの場およびイベント等により駅前のにぎわいを創出する場として活用されています。

2つ目が、大阪府茨木市にあります“元市民会館前広場「IBALAB@広場」”になります。

こちらの広場のポイントとしては市民有志を中心に、社会実験を通して整備内容や自主的な活動、利用ルールが検討されている点になります。

3つ目が福岡県福岡市にあります“福岡市役所西側ふれあい広場”になります。

こちらの広場は民間事業者等によって構成されたまちづくり団体である、エリアマネジメント組織を含む事業体によって活用（運営）が実施されている広場になります。

なお、各施設の詳細については参考資料に記載をしております。

以上3つの先進事例における施設の整備方法、活用方法、運営方法等を参考に、藤原総合文化会館跡地整備にむけて検討するポイントを3点抽出いたしました。

1点目は、民間施設及び公共施設の一体的な整備について

2点目は、施設の有効活用に向けた市民との協働

3点目は、周辺施設を含めたエリアマネジメントによる運営体制になります。

これら検討のポイントに対する基本的な市の考えについては、資料1、3ページにまとめております。

**議事内容**

検討のポイント1点目は「民間施設及び公共施設の一体的な整備」についてです。

新施設の整備予定地には藤原図書館、観光情報センター、公衆トイレのほか、民間施設として鬼怒川・川治温泉旅館協同組合の建物が存在し、これら施設の再編を検討するとともに、市民だけでなく観光客も集える広場を整備することで、鬼怒川温泉駅前の魅力向上につなげてまいりたいと思います。

そこで既存施設の再編については、日光市観光協会鬼怒川・川治支部、及び鬼怒川・川治温泉旅館協同組合との協議を進めるとともに、藤原図書館利用者等の意見を伺うことで対応を進めてまいりたいと思います。

また、広場については、市民の憩いの場だけでなく、鬼怒川温泉の玄関口として観光客へ魅力をアピールできるよう新たな価値を創出するため、部会員の皆様よりご意見をいただきたく存じます。

続いて検討のポイント2点目は「施設の有効活用に向けた市民との協働」についてです。

これまでは文化会館跡地利活用について、公共施設の適正化推進を目的として設置された「藤原総合文化会館検討専門部会」で検討を重ねてまいりました。

今後は現専門部会の名称及び目的を変更するとともに、新たな委員を加え、組織の強化を図り、鬼怒川温泉駅前の活性化を主として検討を進めてまいりたいと思います。

新組織の名称案、設置目的、新組織に加わることが想定される新たな委員について、新組織の名称は「鬼怒川温泉駅前再整備検討市民委員会」、組織の設置目的は「鬼怒川温泉駅前の整備にあたり、市民の立場から幅広く必要な意見を求めるため」になります。

次に新組織に加わることが想定される新たな委員として、東武鉄道株式会社、東武バス株式会社、図書館協議会を想定しております。

また、事務局においても新組織での検討内容に鑑み、現在の部署に加え、新たに4つの部署を事務局に加えたいと考えております。

以上をふまえて、部会員の皆さまにはひきつづき新組織の委員を委嘱させていただくとともに、新たに加えるべき委員についてご意見をいただきたいと存じます。

最後に、検討のポイント3点目、「周辺施設を含めたエリアマネジメントによる運営体制」についてです。

藤原総合文化会館跡地に整備する施設をにぎわい創出の拠点とし、周辺に好影響を及ぼすことで地域の活性化に繋げていくこと、加えて、鬼怒川温泉駅前のイメージを向上させることで観光地としての価値向上を目指してまいりたいと思います。

このため、施設の有効活用が重要となることから、整備後の運営に係る体制づくりを検討することが必要になります。よって、鬼怒川温泉駅前関係団体の連携強化を図り、民間活力の導入も視野に入れ、施設の有効活用を図っていきたくと考えております。

以上をふまえて、資料1、3ページには今後の部会のあり方、及び個別の検討事項に対する市の考えをまとめております。

1点目に、現在の公共施設等の機能をどのように残すのか、関係団体との協議を進めてまいります。

2点目に、鬼怒川温泉駅前周辺のまちづくりの観点から議論ができる組織を立ち上げること、そして、新たな組織において、上記3つの検討のポイントをもとに協議を進めていきたいと考えております。

**部会長**

ありがとうございます。

ただ今の事務局からの説明に対しまして、ご質問・ご意見等ございましたら、お願いいたします。

アドバイザーの先生から何かございますでしょうか。

**議事内容****山本アドバイザー**

まず、協議の対象とするエリアを定めることが非常に大切になる。藤原総合文化会館跡地だけを検討の対象とするのか、より広い範囲を検討の対象とするのか部会において協議が必要となる。

次に、広場の運営に関して、広場の活用方法は事業体によって大きく異なる。よって広場の運営方法を検討する際や先進事例を参照する際には、事業体の特色や規模などをより細かく分析することが必要。

**西尾アドバイザー**

前回会議までに整備に向けてのポイントとして挙げられた「住民、観光客双方から利用されるものを検討すること」、また、今回挙げられたポイントである「広場(民間施設)との一体的な活用を考えること」についてはよいと思う。

今回の先進事例のなかでは、日光市と市の人口規模がおおよそ同等である点、また駅前に図書館と広場が存在している点などから三原市の取り組みが参考になると考える。

参考資料の写真でいうと、三原市の事例は、広場があり、隣接する建物の一階が図書館になっている。また広場と図書館は出入りが自由になっているため非常に開放的な造りになっており、図書館と広場を連携させることでイベント等でも使いやすいような工夫がされている施設だと思う。

施設の集客については、一例として、子育て機能の併設が集客を得るための軸となり得る。他自治体の図書館においても、子供連れが利用しやすいような工夫がされている施設のなかには他の都道府県からも利用者が訪れている事例が存在する。よって、広場の整備にあたっては図書館の機能をうまく使うことも検討するとよいと思う。

なお、参考資料に掲載されている三原市の写真を見ると、左側後方にある駅と駅前広場に対して、道路を挟み、なおかつ建物が背を向ける形で立地している。一方、鬼怒川温泉駅前には駅前と新たに整備される施設の広場を一体的に使える可能性が高いため、よりよいものができるのではないかと感じている。

ポイント1点目の民間施設と公共施設の一体的な整備については大きな課題だと感じる。三原市の例では公共施設の建物と民間施設の建物が別棟で整備されているが、整備に向けて、民間へアイデアを募集した際は公共施設と民間施設を一体的に整備する提案、もしくは別棟で整備する提案、どちらの提案でも受け付けていた。よって、一体的な整備そのものについては民間の提案をうまく活用しながら、複合的、相乗的な効果が生まれるあり方を検討することも必要だと思う。

ポイント2点目と3点目は似ている論点になる。

施設の運営に関しては、市民や地域住民が施設の運営に関わっていくためのつながりを作ることが望ましいと思う。三原市の事例においては、「まちづくり三原」というまちづくり会社が存在する。「まちづくり三原」は直接施設の運営に携わっているわけではないが、様々なイベントを企画して打ち出している。鬼怒川においても地元を含むような運営体制を創出し、イベントやにぎわい創出などのソフト面を担いつつ、施設と連携していく方向性を考えていけるとよいと思う。

**部会員E**

資料1、3ページ、②の部分について新組織の設置に当たり、東武鉄道株式会社、東武バス株式会社、図書館協議会、また、事務局にも新たな部署が加わることで、より現実的なプランができると考える。

これらのメンバーが委員会に加わることで現在の部会から一步前進できると思う。

**部会員D**

委員会に加わる新たなメンバーについては、若い世代も必要ではないかと感じる。

**部会員E**

資料1、1ページにある今後の図書館の取り扱いについて、今の図書館を見ると雨漏りや暖房の故障、入口の階段が急になっている点や、館内にあるスロープも設備の劣化などが見受けられる。よって、図書館の利用を促進するには施設の整備が必要であり、早急に検討すべき問題であると思う。

**議事内容****事務局**

まず、新たな委員会に若い世代を加えるべきという意見について、若者の意見は大変重要であると考えている。委員として迎えるにあたっては、公募で募るのか、また関係団体から推薦いただくのかなど、検討させていただきたい。

また、今回は市の方で東武鉄道株式会社や東武バス株式会社などを新たな委員の案として記載したが、その他、必要だと思う委員がいらっしゃれば、ご意見をいただいで調整したいと思う。

続いて、藤原図書館については施設の老朽化が著しくなっている。

藤原図書館に限らず、公共施設は建設時期がおおむね同じ時期のものが多く、多くの施設が老朽化している。現在の施設を修繕して使用を続ける場合、多額の経費がかかるため、鬼怒川温泉駅前再整備検討の中で今後の藤原図書館のあり方を検討したいと考えている。

また、現施設に危険な箇所が見られれば、資料1、1ページにも記載をしているが仮施設による運営も検討していく。

**部会長**

他に質問等ございますか。

**西尾アドバイザー**

新組織を設置するに当たり、若者の視点というのは重要だと思う。

現在は大学でまちづくりを学んでいる学生が街を舞台にして研究を深めるということも非常に増えてきている。よって、大学生と連携して検討を進めるというのも手段の1つだと感じる。

現在の組織において検討すべき事柄もあると思うが、若い人が自由な発想で検討できる場をつくることもよいのではないかと思う。

**部会長**

ありがとうございます。

他に意見がないようですので、(2)(3)については以上でよろしいでしょうか。

それでは次に「(4)今後のスケジュール」について事務局より説明をお願いします。

**事務局**

ローマ数字4、今後のスケジュールについて説明させていただきます。

藤原総合文化会館跡地、駅前にある公共施設等の整理も含めて、新たに発足する市民委員会及び市議会との協議によって対応を進めてまいります。資料1、4ページには現時点で想定される今後のスケジュールを記載していますが、こちらは現時点で想定される最短のスケジュールとなっており、スケジュールは進捗状況によって随時見直すことといたします。

まず令和6年度の取り組みとしまして、1点目に市有財産ポテンシャル調査を行い、文化会館跡地を含む鬼怒川温泉駅前広場の利活用に対する民間参入可能性を調査いたします。本調査では、文化会館跡地のみならず駅前広場をターゲットに考えており、当該エリアにどのようなポテンシャルがあり、どのような活用方法があるか、それによって鬼怒川温泉駅前の魅力がどのように高まるかを調査する予定となっております。

その他、既存施設の再編に伴う関係団体との協議を行い、新たに発足する委員会では住民、観光客双方から利用される施設の整備方針について協議を行ってまいります。これらの活動をふまえ、令和6年度内に新施設の整備基本方針の決定を目指してまいります。

つづいて令和7年度には、整備基本方針を基に基本計画の策定を行ってまいります。基本計画が策定されたのち、藤原総合文化会館を廃止し、解体設計を行うことといたします。その後、令和8年度に藤原総合文化会館の解体工事着工、令和9年度に新施設の整備工事着工というスケジュールになります。

**議事内容****部会長**

ただいまの説明に対しまして、ご質問・ご意見等がございましたら、お願いいたします。

**部会員A**

先ほど藤原図書館の老朽化について説明があったが、今回、鬼怒川の岩風呂が3月で突然閉館ということになった。藤原図書館についても急に閉館する可能性があるのか伺いたい。

**事務局**

藤原図書館について、急な閉館というのではないと考えており、今後の藤原図書館のあり方については、本専門部会に事前に相談しながら整理していく。

鬼怒川の岩風呂に関しては、壁の崩落や柱の老朽化が見受けられ、施設として危険な状況であった。藤原図書館は暖房、冷房設備の不具合が著しいが、建物などの人命にかかわる問題はないため、岩風呂のようなことはないと考えている。

**部会員G**

岩風呂の閉鎖、そのあとの動向について、ぜひ駅前に日帰り温泉施設ができないか検討いただきたい。

**事務局**

そのようなご意見も受け止め、最終的には市有財産ポテンシャル調査や基本方針を定める中で、駅前整備の方向性を定めていきたいと考えている。

ただ、財政上の観点より、財源が確保できるのか、協議をしながら対応していきたい。

**部会員J**

別紙、新文化会館検討状況について、資料裏面、新文化会館の「建設地の候補」の部分に、3つの文化会館等解体後跡地、および未利用市有地の中から選定とあるが、藤原総合文化会館のあり方が決まらなると新文化会館の建設地も決まらなるといふことか。そうだとすれば、資料1、4ページにおいて、藤原総合文化会館の解体設計は令和7年度とあるため、新文化会館の方向性が決定する時期はそれ以降になるのか。

**事務局**

新文化会館の建設候補地は今市文化会館解体後跡地、または七里地内市有地のいずれかで決定しており、別紙、裏面に記載してある内容は、建設候補地選定の経緯を示した内容となっている。

藤原総合文化会館跡地は、新文化会館の建設候補地から外れており、現在は本専門部会にて駅前活性化について検討を行っている状況となる。

よって、藤原総合文化会館の検討の進捗に関わらず、新文化会館については検討を進めていくこととしている。

**部会員B**

岩風呂の件について、関係団体の立場としては、今年1月くらいにいきなり閉めるといわれて、雇用の問題など、後処理が大変だった。

よって、スケジュールの調整は関係団体の立場も考慮したうえで行ってほしい。

**議事内容****事務局**

ご迷惑をおかけしてしまい、誠に申し訳ない。

施設の整理において、関係者との調整は重要だと認識しており、十分な調整を行うよう担当課にも伝えている。しかしながら、岩風呂の件に関しては、関係者との調整において十分な期間が確保できなかった点は、ご指摘の通りだと考えている。岩風呂については施設の危険性が以前から判明していたため、今後については十分に時間をかけながら、整理を行うよう努めていく。

**部会員B**

市は施設の危険性を指摘するが、我々はなにが危険かわからない状態で閉鎖となった。その点についても、調整が上手くいっていないと感じている。

**事務局**

これまで、公共施設については、メンテナンス、施設の管理において目が届かない部分があった。よって、毎月の検査や施設の点検を義務付けるなかで、岩風呂の施設の危険性が分かった。

しかしながら、施設の点検については、これまで十分に行えていなかった部分があるため、今後については公共施設マネジメント計画において、施設の予防保全に重点をおき、危険な箇所は速やかに直すこととしている。また今年も、危険な箇所をすぐに改修できるよう予算を確保したため、今後は今回のような事例が発生しないよう努めていく。

**部会員K**

岩風呂について、ホームページを見ると3月末で閉館と記載があるが、3月号の広報紙には情報の記載がない。ホームページには情報の記載があるため、その他の媒体においても情報の掲載をいただきたいと思うが、いかがであるか。

**事務局**

施設の危険性の診断とそれによる対処の方針の決定が2024年に入ってからであったため、広報紙でのお知らせについては、間に合わなかった部分があり、大変申し訳ないと思っている。

これまで行ってきた情報周知の取り組みとしては、ホームページへの掲載と関係団体に対する直接の周知を行っている。

**部会長**

その他、ご質問等がなければ、アドバイザーの先生から何かございますでしょうか。

**山本アドバイザー**

市有財産ポテンシャル調査は非常に大切な調査となる。調査においては、施設の現状のみを見てポテンシャルを判断するのではなく、新たな取組をした際に得られる効果を考慮してポテンシャルを判断することも必要になる。一例として、駅前で蒸気機関車の切り替え等を行えば、多くの人が訪れる可能性がある。

またポテンシャルというのは、関係者とのつながりにも左右される。藤原においては、旅館やホテル等と施設の関係性を考慮した上で調査を行うことが望ましい。

**議事内容****西尾アドバイザー**

資料1、1ページ目では、藤原図書館の方向性について基本構想をまとめ、広く市民に周知するとあるため、そのことは4ページ目のスケジュールにも記載し、全体のスケジュールの中で基本構想の策定時期や市民への周知のタイミングが示されているとよいと思う。

その他、4ページに記載があるスケジュールにはハード整備の日程が書かれているが、本日の資料には、整備にむけてのポイントの中で市民協働、エリアマネジメント、施設の運営面についても記載があるため、ソフト面の整備や運営体制の整え方についても全体のスケジュールのなかで整理が必要になると考える。そして、整備にあたってはハードの整備とソフトの整備を同時に行えることが望ましい。

**事務局**

具体的なスケジュールについて、本日は全体的な方向性をお示しするために資料を作成した。この方向性をもとに、基本方針については部会員の皆様よりご意見をいただきながら策定していく。ご意見に関しては、ハード面の整備に関するテーマ、ソフト面の整備に関するテーマなど、その都度テーマを定めながら伺っていききたい。よって、スケジュールの整理に関してもご意見を伺いながら行っていききたいと考えている。

**部会長**

ありがとうございます。続いて次第の4、「その他」に移ってまいります。

**事務局**

生涯学習課より別紙（新文化会館整備検討状況）について説明

**部会長**

その他について、みなさまからは何かありますでしょうか。

**部会員B**

国の人口統計の調査結果によると、日光市の人口は2050年に4.3万人になると言われている。藤原総合文化会館跡地に施設を整備するにあたり、藤原地域の今後の人口推移に関する情報を教えていただきたい。

**事務局**

市の総合政策課においてデータを持っている可能性があるため、次回の会議において、人口の推移、年代ごとの人口など可能な限り詳細な情報を資料としてご提示したいと思う。

**部会員F**

この会議は令和元年度から開催している。6年会議を行っていて、あまり進捗がないように感じる。よって、スピード感をもって会議を進めてほしい。



**議事内容****部会長**

他にございますか。

それでは、本日用意された議題はすべて終了したため、進行を事務局にお返しします。

**事務局**

ありがとうございました。

最後に本日承認いただいた新組織は来年度、立ち上げとなる予定でございます。何卒よろしくお願いたします。

15:00閉会